



Be Hope! プログラム

# 鹿児島の中高校生から 社会への 心からの提言集

2017

中高生が、社会人・大学生と  
100人で対話する  
“小さな社会”をともにして描いた  
11の提言

## かごしま☆まちづくり中高生ミーティングのこと

鹿児島市の「子どもミーティング事業」として開催しました。  
中高生が対話を通して社会に触れ、感じ、  
自分とまちの未来のために願うことを提言にまとめるプログラムです。

コンセプトは  
「中高生が社会のホールシステム（全体性）に触れ、  
自分もその一部であることを心から感じた上で、社会への提言をつくる」。



## 心からの提言をつくるための、4日間のプログラムをつくりました。

1日目 4日間の基盤となる、安心・つながりづくり

2,3日目 「まちづくり100人キャンプファイヤー！」  
人に触れ、課題に触れ、社会に触れる2日間。

4日目 収穫と提言を紡ぐ



## このプログラムの目的

これからの鹿児島を担う中高生が  
まちづくりについて夢を語り、ア  
イデアを出すことを通して、市民  
参画の素養を高めていくこと。そ  
の夢やアイデアを市政運営に活か  
すこと。そして、このプロセスを  
通して中高生に大きな気づきがあ  
ること。同時に、共に関わる大学生、  
社会人にも大きな気づきがあるこ  
と。さらには、実際に変化の気運  
が感じられること。

## 特色：希望になる！“Be Hope!”プログラム

これまでの中高生ミーティング通し、出会ったときはとても緊張している彼らが、プログラムを終えるとイキイキと輝き、後日会ったときにもその輝きが続いていることに嬉しい驚きを感じます。私たちにとって、そして社会にとって彼らが“希望”の存在であるように思いました。そのイメージから、この4日間に“Be Hope! (希望になる)”という名前をつけています。

参加してくれる中高生の豊かなキャリア形成の入り口をつくり、私たちが生きる社会に希望を生み出していきたい。自分自身も希望になり得る人だと感じながら、そして、彼ら自身が希望だと感じられながら前に進んでいってほしい。そんな想いで今回のプログラムをつくりました。

平和で豊かなはずなのに、生きづらさや将来への不安を感じる人もいます。  
そんな今、“希望になる”資質を持った人が本当に求められていると思っています。



1日目

8/17 (木)



### 4日間の基盤となる、安心・つながりづくり

中高生と大学生、そして私たちとのつながりをつくり、  
これからの時間をともに過ごす仲間との、  
はじめの大切な時間となりました。

2・3日目

8/26 (土)・8/27 (日)



### ＼まちづくり100人キャンプファイヤー！／

### 人に触れ、課題に触れ、社会に触れる2日間。

多世代の素敵な大人を集め、  
総勢100人で2日間を共にします。



会場全体のつながりをつくり、  
その場にいる人が抱えている“課題”に、  
中高生も含めたみんなで行っていきます。

少人数で囲むのは“たき火”。100人で囲むのは“キャンプファイヤー”！キャンプファイヤーだから、気軽な格好で集まればいいし、かきこまる必要もない。歌って踊る人がいてもいいし、静かに炎を見つめる人がいてもいい。火を囲んで過ごす喜びを大いに祝い、いつもは語らないことを語って耳を傾ける時間。

本物の炎はないけど、集まった人たちの想いや情熱が大炎となって熱いくらいになりました。



4日目

10/1 (日)



### 収穫と提言を紡ぐ

ここまでの収穫を振り返り、  
関心を高く持った事柄についての  
提言をつくり、プレゼンテーションをしました。

## “大事にしてきた3つの習慣”

### “静かな時間”から始める。

心が落ち着き集中でき、自分の心の動きに気づきやすくなる。  
相手の存在を受け容れやすくなり、つながりが生まれる。

リラックスして座り、軽く目を閉じて過ごす静かな時間は、Google や Apple といった企業でも重要視され、実践されています。EQ（こころの知能指数）が高まることで、何かを実行する力・人との関係をつくる力・自分自身を幸福にしていく力を高める効果があることが科学的に証明されています。



### “ただただ聴き合う”こと。

頭からでなく、心からの言葉で語る。  
ただ聴くことが、相手を想う気持ちを育む。

2人で話し手と聴き手になり、2分間ずつただ語り聴き合う。話し手は、聴いてもらえる喜びを味わい、自分の存在の大切さを感じる。聴き手は、“自分の存在を相手へのギフトにすること”を体感し、自分の中の優しさ・思いやりを感じる。とても簡単で、とても得難く貴重な時間だと思っています。



### “普遍的に大切なこと”に意識を置く。

瞬間瞬間、私たちには大切にしたいことがある。  
誰のどんな言動も、なにか大切なことがあって現れている。  
“大切なこと”でなら、私たちはもっと理解し合い、つながれる。

「なにを言ったか・やったかではなく、その言動の奥にある“大切にしたいこと”とつながろうとする」というのが、世界の紛争解決に取り組む対話法・非暴力コミュニケーションの知恵です。自分とのつながり、相手とのつながりがより強いものになっていきます



## 100人でつくりだした対話の場。 あたたかい、小さな社会。

100人でも、対話と“3つの習慣”を2日間共有する中で、つながりが深まり、一体感が生まれました。顔を合わせた誰もの話を聴く準備ができていて、全体で話す人がいるときには耳をそばだてる。小さいけれど、ひとつの“社会”のようで、あたたかい空間が現れていました。



## 中高生も社会人も、 “受容”を求めている。

中学生の男の子が「ここではなにを言っても大丈夫なんだって感じてる」と話してくれました。間違っていないだろうか？あとでなにか言われないうだろうか？そうしたことを気にせず安心して自分でいられる。それは社会人にとっても同じでした。「2日間だけなのに、帰ってこられる家のような場所に感じる」。そう感じさせるような“受容”がある場だったのだと思います。



## 提言を心からの表現にするために、 感性に触れる工夫。

頭だけでなく、心も十分に使って対話をし、一人ひとりが心からの表現として提言をつくれるように、たくさんの工夫を凝らしました。会場中央のたき火モニュメント。全員でつくる大きな円。絵で表現をする仲間のライブ・ペインティング。ジャンベを叩き、音楽を奏で、みんなで歌う。踊って身体で表現する。心動く瞬間がいくつもありました。



何かしなければいけない  
言わなければいけないという  
強迫観念から解放された。

いろんな人の気持ちが  
わかるようになった気がする

安心できるつながりの中だから、  
100人の前でびのび表現できた。

とても安心できる感がある。  
仕事にしろなんにしろ  
生産が上がる確信を持った。

希望を感じた。

普段感じない部分に集中して、  
自分を感じることができた。

こんな大人と出会い  
ワクワクした！

つながりがあり、  
話を聞いてもらえるだけで  
こんなにも癒されるのか。。

沈黙でも、失敗しても  
うまくなくても  
そのままが良いと思えた。

# voice

この場に参加した人たちから  
聴こえてきた声

自分自身と  
こんなに向き合うことは  
これまでなかった。

「柔らかくなったね」  
と言われるようになった。

またここに  
帰ってきたい  
と思えた。

ただ聞くことの大切さを知ること  
あの人の話を聞いてなかったなあと思い、  
いろんな人の顔が出てきた。

自分らしくいるためには、  
心の内面を、丁寧に話すことが大事。  
と気づいた。

自然でいられる。  
年齢や少しの違いによって  
共有できることの制限ができてしまう。  
だからこそ、このような場で  
自然でいられることがなんて  
うれしいことか！

この問いかけがなければ  
話せていなかったことが  
話せた。

自分を表現する  
言葉を得た。

自分の感覚を大切に  
選択をすることができた。

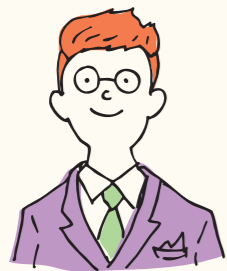
何て言われるか、とか  
これは正しいか、とか  
気にせず話せた。

100人を前にしても  
心から話げできた。

その人の中の  
本当のニーズに気づくことから  
いろんなことが始まる、って思った。

社会人の困りごとに触れることで、  
社会への提言を考えるヒントを見つける。

# touch



## こんなことがある

自分たちの会社のことを  
知ってもらいたいけど、  
なかなかうまくいかない。  
心が暗い感じがする。

## 必要としていること ・大事にしていること

社会の中心にある“仕事”が  
明るく前向きなものであってほしい。  
それを、子どもたちに  
引き継いでいきたい。

## リクエスト

**私へ**  
安定した経営を続けること。  
前向きな考えをすること。

**私とつながる人へ**  
私のことをもっと知ってほしい。  
想いを込めてつくった  
HPをみてほしい。

**社会へ**  
前向きな考え方を伝える  
教育にしてほしい。  
多世代、多業種の人たちとの  
つながりをつくる場をつくってほしい。  
前向き、気楽、フラットな  
会社もあるということを知ってほしい。  
「仕事」はそういう風にもできる」  
という見方が社会にあるようにしたい。



## こんなことがある

ボランティアサークルの中で、  
昔からいる人と  
最近加わった人との間で  
意識の違いがあって、  
望んでいるような  
運営ができていない。  
うんざりしているし、寂しい気持ち。

## 必要としていること ・大事にしていること

仲間同士のつながりがあること。  
互いに聴き合い調和があること。  
希望を感じながら、  
目的に向かって進むこと。

## リクエスト

**私へ**  
自己表現できる場をつくること。  
自分が感じていることを  
正直に伝えること。

**私とつながる人へ**  
私を感じていることを  
正直に誠意を込めて話すので、  
それを聴いてくれませんか。

**社会へ**  
自分自身正直に話すことと、  
相手が感じていることを  
正直に受け取れる  
聴き方・あり方を育む  
文化であってほしい。



## こんなことがある

地域の人が心をオープンに  
してくれていないと感じる。  
地域を良くしたいと動いているが、  
その前進を心から感じられることが  
少ない。  
もどかしいし、悔しさもある。

## 必要としていること ・大事にしていること

動きがあること。  
正直さのある関係性・やり取り。  
希望を感じたい。

## リクエスト

**私へ**  
自分自身が正直に話すこと。  
自分がどうしたいと思っているのか、  
何を話すべきなのか、明確にする。

**私とつながる人へ**  
心を開いた正直な  
対話の機会をつくりたい。

**社会へ**  
心を開いて正直に話す  
文化をつくりたい。  
そこにつながる教育、  
生涯学習の機会をつくってはどうか。



## こんなことがある

本音で話してくれない、  
人づてでその人が言っていたことが  
伝わってくる。  
そういうことが続くと、  
関係性も悪くなるし、  
目的に向かって進むことができない。  
無力感があり、悩まされる。

## 必要としていること ・大事にしていること

心が開かれた、正直な関係性。  
お互いが満たされていて、  
共に創造すること。

## リクエスト

**私へ**  
まず自分が正直に真剣に話すこと。  
相手がどんなことを  
感じているかに耳を傾けること。  
今の相手の状態に意識を向けること。

**相手へ、私と関わり得る人へ**  
お互いの必要としていることを  
満たすために「今、何を話したいか」、  
前進につながる対話を  
リクエストしたい。

**社会へ**  
心を開いて正直に話す文化を  
つくりたい。  
お互いに対する不満があっても、  
そこからお互いが  
大切にしていることを発見し、  
その両方を満たせる方法を一緒に探す、  
というのが当たり前になってほしい。



## こんなことがある

組織の中で若手から  
せっかく出てきた提案を  
上司が否定的に扱い、  
がっかりしたし、やる気を失った。

## 必要としていること ・大事にしていること

希望があり、挑戦が生まれること。  
その価値が認められていること。  
前進のためのパワーがあること。

## リクエスト

**私へ**  
上司が受け取りやすい、  
少人数で予算のかからない、  
小さな取り組みの提案をし、  
実行すること。  
そのための仲間づくりをすること。

**私とつながる人へ**  
なにかを決めて伝えてくれるときには、  
その理由を明確に知らせてほしい。  
そのことが先に活かされるように、  
建設的な意見交換をする場を  
共に持ってほしい。

**社会へ**  
小さいチャレンジを歓迎するような、  
挑戦しやすい雰囲気のある  
文化であってほしい。



## こんなことがある

PTAの役員決めの際、  
自分から手を挙げる人がいなくて、  
「私には無理」「出来ません」  
という声が聞こえる。  
それでも、現状への文句は言う。  
文句を言うなら  
自分たちで良くしようよ！  
とがっかりするし、残念な気持ちになる。  
子どもたちには  
「積極的に手を挙げて役割を持ちなさい」  
と言うのに。

## 必要としていること ・大事にしていること

自分も相手も共感を得られること。  
信頼を感じられるつながりを持ちたい。  
こうした取り組みに関わる  
すべての人が安心できること。

## リクエスト

**私へ**  
会議の中でなく、個人的に話かけ、  
相手の話をじっくり聴くこと。  
本当にみんなが引き受けることが難しく、  
そのことに共感できたら、  
自分が引き受けてもいいと思えた。

**私とつながる人へ**  
あなたの話をしてほしい。  
そして、私の話を聴いてほしい。  
役員決めなどの場があったときには、  
積極的に発言して、参加してほしい。  
正直さがやりとりされるようになってほしい。  
そしたら、前に進めると思うから。

**社会へ**  
誰かがなにかの役割を担うときには、  
その役割がどんなものか、  
できるだけわかりやすく  
明確になるようにしてほしい。  
同時に、決まっていることだから変えられない、  
というのではなく、役割を担う人、  
そのまわりの人が必要としていることを  
満たせるような柔軟さがあるようにしてほしい。  
役割を担った人が十分な協力を  
得られるようにしてほしい。

# 提言のつくり方

～心からの願いを表現するために～

## 提言の意図・目的

中高生自身やキャンプファイヤーで出会った社会人の「なんとかしたい！」不安やこまりごとに対して願うことを、表現すること。すぐに叶うことではないかもしれないけど、その表現は必ず誰かに届き、そのひとの世界観を変化させる。そうして、あなたが願ったことが世界に現れてくる。そのための表現を、提言という形で表してもらいました。ただ紙に向かって書き出すのではなく、Fire Students (学生スタッフ) とペアになり、問いかけに答えるように提言を紡ぎだしました。社会に関心のある人たちが、提言する中高生の価値観や考え方を理解した上で提言に触れてもらえるよう、6つの問いに答えることで提言となるような構成になっています。

中高生の提言は、「自分自身の困りごと」あるいは「出会った社会人の困りごと」を元に、それを満たすための願いとして表現してもらいました。“心からの表現”になるように、提言づくりのための問いを元に2人組で“ただただ聴き合う”時間をつくり、提言を書き上げるベースにしました。

提言は、読んでくれた人の心に届くように、書いた人の人間性が伝わる構成を意識しています。図にまとめ、中高生に伝えたものがこちらです。

## ② 私はこれからどう生きたいか？

これから先、大切にしたいことは？  
参加の前と後ではどんなことが  
変わっただろう？

(意図：「どう生きたいか」の意志が  
持っている大きな力を伝えたい。)



## ① 私の感性

今回参加して、  
一番良かったことは？

(意図：あなた自身のことを知ってもらいたい。)



## ③ 今回感じた、社会への希望

今回参加して、  
社会にどんな希望を感じた？

(意図：世の中がまだ知らない  
希望を発信したい。)



## ⑤ あなたが願う世界観の表出としての「提言」

“不安や困りごと”が満たされるために、  
他の人たちや社会全体にお願いしたいことは？  
どんな世界であることを願っている？

(意図：あなたの願いを、社会の中で生きる人々に届けたい。)



## ⑥ 願う世界観のための、自分の「宣言」

あなたが日々の中でできること、  
これから大人になっていく中で  
やろうと思うことは？

(意図：あなたが、他の人たちや  
社会とともにやろうと思えたことを伝えたい。)

## ④ 自分や社会が持っている不安やこまりごと

「あなたにとって大切な  
“不安や困りごと”はなんですか？」

(意図：あなたの提言と宣言の“タネ”を知ってもらいたい。)



# そして、こんな提言たちが生まれました！ まずは一覧から。

文章として仕上がってみると、心からの表現をまとめられた喜びとともに、中高生たちの声・表情・存在感…たくさんものを届けられないもどかしさがあります。文章だけでは、もしかしたら理想的な“いいこと”を言っているように聞こえたり、十分に理解できないこともあるかもしれません。

それでも、私たちは、彼らが本当にのびのび、イキイキと過ごす姿を見ているし、心を開いた対話を共にしてきました。この提言たちは「いいことを書こう」という表面的な要素のない、心から自然に表現されたものです。

開かれた心で、一言一言を感じながら読んでいただけを願っています。そして、彼らが願う社会を共に作る仲間になってくださることも。



こんな素晴らしい空間があるのに、それを味わうことができないこと。気づきにくい世界に生きている人がいることが残念です。これってなんとかならないでしょうか。



自分に否定的にならず、相手を信頼し、積極的に自分の意見を相手に伝え、よりよい関係を築いていってほしい。

自分を確かめられる場所、いつでも帰ってこれる場所があることを願います。



何か問題が起きたとき、表面上のことを話すだけでなく、相手という人そのものを知ろうとすること。



少し傷ついても、思っていることを素直に話せる環境をつくってほしいです。

日常でも“自分のこと”を伝えたり、聞いたりして言葉にする時間を取りたい！



他の人たちと信頼しあえる世界であってほしいです。



高校生がいろんな社会とつながれる社会であってほしい。



皆が、平等・対等であることを願います。一人ひとりに対する態度が違う世界にはなってほしくない。若者への指導を面倒くさがないでほしい。新しい芽をつぶすのではなく、しっかりと育ててほしい。



問題が起こっても、相手と話しをすることが難しい。人と話す時間が確保された社会であることを願います。



自分が苦しんでいることを間接的に打ち明けられる場を設けることを願います。





＼社会への提言／

自分に否定的にならず、相手を信頼し、積極的に自分の意見を相手に伝え、よりよい関係を築いていってほしい。



高校1年生

共感できることによって  
私たちが何か社会に対してできることがあるのではないかと  
希望が持てた。

今回参加して一番良かったのは、社会や自分のことなど普段考えないことを考え、いつもは関わりたくない中高生や大学生・社会人との対話を通して自分がどのように感じたかを伝えられたことです。また、自分やまわりの人が見ている・見えている世界を知ることでもできました。

私はこれから先、自分のやりたいことや、自分の気持ちを大切にしたいと続けていきたいと思っています。

4日間を終え、社会に感じている希望は、ひとつめに、社会人が普段感じていることに対して、共感できる感情や事柄が意外と多く、共感することで私たちが何か

社会に対してできることがあるんじゃないかと希望が持てました。ふたつめに、社会をより良くしようという目的と意思を持った中高生ミーティングは、社会人にとっての希望にもなるんじゃないかと感じました。

私にとっての大切な不安や困りごとは、自分も相手も、意見や考えたことを言わず、互いに信頼し合えない関係になり、トラブルが生まれてしまうことです。

その不安や困りごとが満たされるために、つながる人たちが社会にお願いしたいことは、自分に否定的にならず、相手と信頼し合い、積極的に自分の意見を相手に伝え、よりよい関係を築いていって

もらうことです。

そのために私が日々の中でできること、これから大人になっていく中でやろうと思うことは、自分がまわりの人から信頼されるような人になることです。私にとって「信頼できる人」は、自分の意見を受け入れ、それに対する意見もしっかり伝えてくれる人です。些細な出来事でも、まわりの人が意見を言えないような雰囲気とき、自分から積極的に聞いてみる。そして、尊重することを大切にしながら、その意見に対する自分の意見もしっかり伝える。そんな人であることを大切に、日々を過ごしていきたいと思っています。

＼社会への提言／

自分を確かめられる場所、いつでも帰ってこられる場所があることを願います。



高校1年生

押し殺していることをイキイキさせたいです。  
感じることを実現させることで人の力にしたいです。

今回参加して一番良かったことは、本当の自分の思いを表現でき、伝えることができたこと。いまやっていることの原点を見つめなおすことができました。

これから先、大切にしたいことは、自分に正直に生きることです。押し殺していることをイキイキさせたい。感じることを現すことで人の力にしたい。絵でも言葉でもいいから、表現していきたい。そして、相手の思いや感情も大切にしたいです。

今回を通して社会に希望を感じたのは、ありのままの自分を受け入れてくれる環境があるこ

とです。これまで、息苦しさ、生き苦しさを感じていました。でも、中高生ミーティングには自分を表現できる場がありました。それは自分にとって希望でした。それを望んでいる人はいっぱいいると思います。

私にとっての大切な不安や困りごとは、みんな一緒に合わせるのが当たり前の社会では、自分を見失ってしまうということ。窮屈さを感じ、自分には必要ないと感じ、自分を見失ってしまう。それは何よりも怖いこと。

不安や困りごとが満たされるため、他の人たちや社会全体に、

自分を確かめられる場所、いつでも帰ってこられる場所があることを願います。目的はなくても、安心できる場所・時間。それを全体に行き届かせ、あったかい社会になってほしい。目に見えるかたち（お金・地位・表面的なつながり）よりも、もっと大事なこと。

私が日々の中でできること、これから大人になっていく中でやろうと思うことは、思いを言葉や絵で表現していくことです。自分自身が行動で表す中で、仲間との間に良い影響を生み出していきたくたいです。





問題が起こっても、  
相手と話しをすることが難しい。  
人と話す時間が確保された  
社会であることを願います。



高校2年生

参加前は自分の思いを伝えることが  
大切だと思っていましたが、  
今は相手の話を聴くことが大切だと知りました。

今回参加して一番良かったのは、たくさんの人と話をすることで、話を聴く大切さを知れたことです。話を理解しようとすることで、自分の考えもより良くなっていきました。

これから先、大切にしたいこと。どんな問題でも相手がいれば、相手の考えていることがあります。参加前は自分の思いを伝えることが大切だと思っていましたが、今は相手の話を聴くことが大切だと知っています。

今回参加して、社会に希望を

感じたのは、社会人の方々が、社会の問題に対してすごく悩みなながらも向き合っていることでした。それは中高生の私には希望で、そのことを知ることで社会への憧れを持ってました。

私にとっての大切な不安や困りごとは、多くの人にとって、問題が起こったとき、相手と話しをすることが難しいということです。

不安や困りごとが満たされるための社会への願いは、中高生でも社会人でも、人と十分に話

す時間が確保できる社会であることを願います。

私が日々の中でできること、これから大人になっていく中でやろうと思うことは、問題や困難なことがあったときに、まわりの人と話をして解決をしようとするです。自分の意見を話せること、相手の意見を聴くことによって生まれた解決策は、社会を変える力を持つ気がするからです。



高校生がいろんな社会と  
つながれる社会であってほしい。



高校1年生

高校生の発言に耳を傾けてくれる人が  
社会にいることに、とても希望を感じました。

今回参加して一番良かったのは、自分の中に変化があったこと。普段聴くことができない社会人の困りごとを聴いて「どうにかしたい」と思う反面、初めは「高校生の私じゃ何もできない」と思いました。でも、対話の中で聴いた社会人の困りごとが自分の困りごとと似ていて、高校生でも社会人でも大事なところは一緒なんじゃないかって感じました。自分の将来のことを考えられたのも嬉しかった。たくさんの人と話せて、つながりを持つことで、本当に良かった。

私がこれから大切にしたいことは、自分と関わってくれる人について考えることです。そのとき相手が大切にしていることは自分のものとは違うかもしれないけど、それを大切にしたい。そんな人間関係を築きたいです。それができたら嫌なことや困りごとはなくなるのかも。自分の周りに人がいることは嬉しいことだし、誰かがいるから頑張れることだってあります。いろんな人と対話をしてそれぞれの考えや感じていることを知って、自分に大きな変化があったので、自分の周りの人にも対話の場を体感してほしいと思いました。対話を経験してから、勉強に対する姿勢も変わったし、日

常生活の中でも相手の考えていることを思いながら生活するようになったから。

今回参加して感じた社会への希望は、今までは「高校生だから何もできない」と思っていたけど、高校生だからできることもあるんじゃないかと思えたことです。世代が違うからこそ、感じること・考えることがあります。そして、高校生の発言に耳を傾けてくれる人が社会にいることにもとても希望を感じました。社会人の方々の対話の中で、一人ひとり思うところを持ちながら生活しているんだと感じました。今生きている社会も楽しいし、困りごとばかりではないけど、対話したり聴き合うことで解決できる困りごともあるって、そうしてみんなの抱える困りごとが少しでも減ったら、より良い社会になるのではと思いました。

私の今までの困りごとは進路のことばかりでした。学校にいると社会との関わりが少なかったり身近なところまでとどまってしまう。自分が知らない世界はたくさんあって、その知らない世界に自分のやりたいことがあるかもしれないのに、どうやって進路を決めればいいのかと悩んでいました。今回参加したこ

とで自分の身近なところを超えた社会を知ることができたし、考えるきっかけにもなりました。

私が社会に願うことは、もっといろんな社会を知りたいということ。こんなにいろんな人がいて、それぞれが毎日生活している社会ってすごい。それだけの人がいれば、自分の知らないことはまだまだある！高校生がいろんな社会とつながれる社会であってほしい。自分一人では難しいかもしれないけど、さまざまな社会で生きている人の話を聴くためのつながりが欲しいです。

そんな私が日々の中でできること、これから大人になっていく中でやろうと思うことは、自分から社会を知ろうとして、社会について感じたこと・考えたことを発信することです。社会人との対話で、現実に対して心の中で思うことがあってどうにかしたくても、行動に移すことは難しいということを実感しました。みんなの困りごとが解決したら、もっと楽しい社会になるのに。そして、自分の身の周りでのことでも思っていること・困りごとを発信していきたい。小さなところから始めて、高校生の想いを知ってもらうために発信するし、できることがあれば一緒に行動していきたいです。



中学 2 年生

＼ 社会への提言 ＼

少し傷ついても、  
思っていることを  
素直に話せる環境を  
つくってほしいです。

社会人の方と悩みを打ち明けることで、  
皆同じように悩みを持っているんだと感じました。

今回参加して一番良かったことは、自分が素直に話すことに対して皆が笑顔で静かに聞いてくれることに嬉しさを感じ、心を落ち着かせて話すことができたことです。

これから先、大切にしたいこと。以前は、少し嘘をついても相手と自分がお互いに傷つけないように話すことが良いことだと思っていました。でも、この対話の場を通じて、言葉を

選びながらも、本音で話すことに良さを感じました。

今回、社会に感じた希望は、社会人の方と悩みを打ち明け合う中で、みんな同じように悩みを持っているんだと感じられたことです。

私は、悩みに対して考える時間をつくらず、すぐに決断を下してしまうこともあります。相手の悩みに対して、どういう悩みか分からず、自分で決めて

しまうこともあり、あとから後悔することもありました。

だから、私が他の人たちや社会に願うことは、少し傷つく恐れがあっても、思っていることを素直に話せる環境をつくってほしい、ということです。

そのために私は日々の中で、そしてこれから大人になっていく中で、秘密を守りながらも、正直に本音で話していきたいと思っています。

＼ 社会への提言 ＼

日常でも "自分のこと" を伝えたり、  
聞いたりして言葉にする時間を取りたい！



高校 1 年生

「この人がいなければいいのに」という想いではなく、  
方法は違っても「共生できる関係をもちたい」とか  
「多様性を尊重したい」と思えたことです。



今回参加して一番良かったことは、中高生や大学生・大人と対等に話せたことで、相手に意識を向けられるようになったことです。また、鹿児島が大好きな大人と出会うことができました。将来、自分自身も鹿児島の役に立ちたいと思っていたので、勇気が湧きました。

私はこの機会を通して、自分を客観的に見れるようになりました。それによって、おだやかな心で過ごせるようになりました。大人になってもひとつのことを一緒に考えられるような、伝え合えるような、そして安らぎを与えられる関係を、まわりの人とつくっていききたいです。

今回感じた社会への希望は、「この人がいなければいいのに」

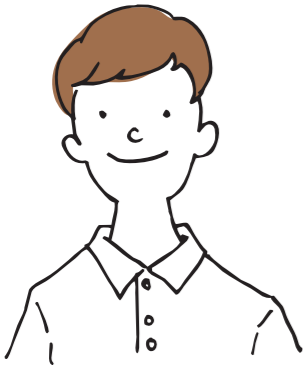
という想いではなく、方法は違っても「共生できる関係を持ちたい」とか「多様性を尊重したい」と思えたことです。みんなの気持ちがプラスの方に向かっていくことのあたたかさを感じました。

私にとっての大切な不安や困りごとは、「自分のことが大切」だけだと、生活の中で理解してくれる人を見つけづらいこと。お互いに誤解されたくないし、したくないからだと思います。そして、自分と相手の両方が「自分を大切」にして、「自分らしく」いたらいいけれど、それは難しいということ。

その不安や困りごとが満たされるために、他の人たちや社会全体にお願いしたいことは、「日

常でも“自分のこと”を伝えたり、聞いたりして言葉にする時間があったらいい！」ということ。自分の言葉で自分のことを伝え、相手にも自分にも、内側にある想いや気持ちが見えてくる。“私に見えるその人”と、“その人の本当の内側”のちぐはぐをなくしてみると、本当の“その人”が見えてくる！という発見があったんです。

そのために私は、「引き出せるひと」になりたいです！ただただ相手の話を聞いてあげられる空気感だったり、安心感を作りたい。そのためにまず自分が素直にいるということ、笑顔で優しくうなづくということを通して、相手にとって「心地よいひと」になれることを目指します。



高校3年生

社会への提言

皆が、平等・対等であることを願います。  
一人ひとりに対しての  
態度が違う世界にはなってほしくない。  
若者への指導を面倒くさがらないでほしい。  
新しい芽をつぶすのではなく、  
しっかりと育ててほしい。

相手に意見を伝えることで、ニーズも分かり、  
気づくということを大切にしていきたいです。

今回参加して一番良かったことは、自分の成長を感じられたこと。1日目と比べて、3日目の自分はしっかりと自分の意見を持っていて、イキイキしていました。コミュニケーションの大切さを実感し、人見知りも解消できた気がします。また社会人から見た中高生のイメージも知れてよかったです。

これから先、大切にしたいことは、聞くことと、伝えることです。中高生ミーティングに参加して、コミュニケーションの大切さを感じました。相手に意見を伝えることで大切にしていることが伝わるし、自分も相手の大切なことに気づくことを大切にしていきたいです。そして、初めて会う人への関わり方など、今回学んだことを社会

に共有したい、そして自分が大切にしていきたいです。

今回の参加を通して、社会に対して十分な希望は感じられていません。しかし今回参加して、若者の意見を必要としていることが分かり、もっと知ってほしいと思いました。同時に、中高生や若者が知らないことをたくさん教えてほしいです。

私にとっての大切な不安や困りごとは、多くの方が、自分のことで精いっぱい、まわりを見ようとしないうことです。人の意見に聞く耳を持たず、相手を困らせているように感じます。もっと公平な世界になってほしい。男と女は同じです。偏見を持たないことを大切にしたい。

私が社会に願うことは、みんなが平等・対等であることを願

います。一人ひとりに対しての態度が違う世界にはなってほしくない。若者への指導を面倒くさがらないでほしい。新しい芽をつぶすのではなく、しっかりと育ててほしい。

同時に私は、日々の中で、大人になっていく中で、人の意見にはしっかりと聞く耳をもち、それに対して自分はなにを大切にしたいのかを伝えていきたいです。困っている人がいたら、力になりたい。また、指導する立場に立ったら、公平に指導していきます。人とのつながりを増やして、親睦を深め、考え方を共有していきたい。立派な大人になりたいと思います。



高校1年生

社会への提言

自分が苦しんでいることを  
間接的に打ち明けられる  
場を設けることを願います。

人の気持ちを常に考えて自分の立場を獲得する、  
頂点に立つ孤高の存在になりたいです。

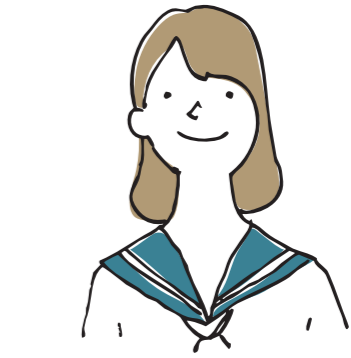
今回参加して一番良かったことは、自分は通信高校生なので、普段関わることのない中高生との交流ができたことです。

これから先、大切にしたいことは、交流やセミナーに参加する心意気・勢いは大事だが、自分が思っていたようなものを得ることができなかったとき、どうしたら問題がないのか、身をもって知ることができました。

今回参加して社会に感じた希望は、社会に出たとき、今回参加した人たちがアドバイスをくれる「可能性」があるのだと感じました。

私にとっての大切な不安や困りごとは、同調圧力という名の日本の伝統的な集団におけるハラスメント。

そのことのために、他の人たちや社会に対して、たとえば企



中学2年生

他の人たちと信頼しあえる  
世界であってほしいです。

人と人との関係を大切にして、  
たくさんの人と話をしていきたいです。

今回参加して一番良かったことは、いろんな人に会って、いろんな考え方を知ることができたことです。

これから先、大切にしたいことは、人と人との関係を大切にして、たくさんの人と話をしていきたいです。

今回参加して、社会に希望を

感じたことは、自分の不安や困りごとを聞いてくれる人がいることで、不安や困りごとが減っていくのではないかと思います。

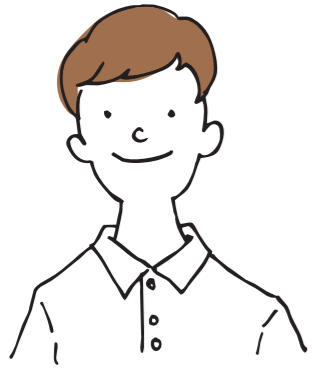
私にとっての大切な不安や困りごと。自分が必要とされないとき、私は不安になります。

不安や困りごとが満たされる

ために、他の人たちや社会全体にお願いしたいことは、他の人たちと信頼しあえる世界であってほしいです。

私が日々の中でできること、これから大人になっていく中でやろうと思うことは、いろんなことに自分から挑戦していくことです。

社会への提言



高校1年生

何か問題が起きたとき、  
表面上のことを話すだけでなく、  
相手という人そのものを知ろうとすること。



ぼくはこれから先、自分の考えと相手の考えをより多角的に捉え、  
より柔らかく物事を考えていきたいと思います。

今回参加して一番良かったことは、他世代の方々と同じテーマで話すことで、新たな考えに出会えたことです。自分の考えを知ってもらうことを通して、もっと多くの人と話をしたくなりました。そのためにも、生活の中にほどよい「ゆとり」があることが大切だとも感じました。

ぼくはこれから先、自分の考えと相手の考えをより多角的に捉え、より柔らかく物事を考えていきたいと思います。そして、お互

いが対等に話せる友人づくりをしていきたいです。

今回、年齢差関係なく、同じ“人”という対等な立場で話し合う経験ができて、社会も、より互いが助け合い、尊重し合えるものになり得るんじゃないかという希望を持っています。

ぼくにとつての今の困りごとは、相手がなにを思っているかを考えすぎて、自分の思いを言えないことがあることです。

そのためにぼくが社会に願って

いることは、何か問題が起きたとき、表面上のことを話すだけでなく、相手という人そのものを知ろうとすること。そして、自分のことを伝える努力をしてほしいと思っています。

それとともにぼくは、相手に「安心感」を与えられる人でありたいです。自分の意見を言い、相手のことも聞ける人でありたいと思います。



中学3年生

社会への提言

こんな素晴らしい空間があるのに、  
それを味わうことができないこと。  
気づきにくい世界に  
生きている人がいることが残念です。  
これってなんとかならないでしょうか。

自分では恐れていたことを克服することができました。



私は友だちの誘いでこの場に来ました。そして、自分では恐れていたことを克服することができました。レベルアップですね。この場所で、私には、呼び名がなかったので「フォーミン」と名付けられました。嬉しかったです。

僕は普段一部の人たちとしか話さないから、嬉しいことを話すことができて変わった。また、ああなりたいなあとも感じています。

今回、コミュニケーションの基礎を学んだような感じがします。一人ひとり感情が違いますが、一緒に話し、分かち合える。それは希望です。

最近のニュースで北朝鮮がなんやかんやとしています。それと比べて、こういう素晴らしい空間を味わうことができていなんて、いまの自分が誇らしいです。

こんな素晴らしい空間があるの

に、それを毎日のように味わうことができないこと。そして気づきにくい世界に生きているひとがいることが残念です。これって、なんとかならないでしょうか。

僕はこれから、レベルアップした自分を大切にして、コミュニケーションなど学んだことを日々の中でも大切にしていきたいと思っています。

「まちづくり100人キャンプファイヤー！」では、対話の場を共にしてきた仲間を中心に「中高生の経験に貢献するとともに、自分たちもたくさん気づきを得たい」という意図を持った約60名の社会人が集いました。多くの方が夏の2日間を提供してくれたこと、大きな喜びでした。



中高生に寄り添ってくれた学生や社会人スタッフ

中高生に寄り添ってくれた学生や社会人スタッフ

“3つの習慣”を体感する事前の研修の機会をつくり「自分の人生の中で、この中高生ミーティングに参画することはどんな意味を持っているだろう？」という問いかけで対話を重ねた仲間たち。マニュアルではなく“目の前にある人や場はなにを必要としているだろう？自分が心からしたい表現はどんなものだろう？”という感覚を持って運営をすることで、高いチームワークを発揮することができました。



鹿児島大学  
藤本 佳奈枝さん



鹿児島大学  
吉元 明子さん



鹿児島大学  
鈴木 涼良さん



鹿児島国際大学  
西村 未来さん



鹿児島国際大学  
佐々木 翔さん



鹿児島大学  
渡辺 貴大さん



鹿児島国際大学  
木本 貴久さん



鹿児島国際大学  
大野 ゆりあさん



志学館大学  
岡元 里桜さん



鹿児島国際大学  
植田 陽亮さん



鹿児島国際大学  
松吉 みさとさん



北九州市立大学  
高橋 空雅さん



純心女子大学  
高橋 愛梨さん



鹿児島大学  
前田 祐加さん



鹿児島大学  
野崎 翔太さん



鹿児島国際大学  
小西 里奈さん



志学館 卒業生  
中 美南穂さん



ヒトトキアヤノ  
柏原 彩乃さん



鹿児島大学  
若松 香澄さん



たきびと  
TAKIBITO

“たきびと”とは

私たちは、中高生が社会と出会い続けられる場を月に一度つくっています。あたたかい雰囲気に対話すること、たき火を囲む感覚がとても似ていると感じ、その取り組みを「たきびと-TAKIBITO-」と呼んでいます。「たき火にあたるようにあつたまれる」場所。そして、たき火が燃えた後に白く輝く熾き火（おきび）ができるように、対話のたき火から生まれた熾き火をそれぞれの人が家庭や学校、職場といった自分の場所に持って帰り、自分や周りの人をあたたため続けていくことを願っています。



社会のインバーティブ・リーダーを育む  
合同会社むすび CEO  
いしかわ せいち  
石川 世太



対話と挑戦の文化を鹿児島に  
鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab 事務局長  
いひふく  
飯福 あすみ



場づくりとデザインで、心からの表現とともに  
コトカキ屋 代表  
おぎさ ゆういちろう  
小笹 雄一郎

提言から見えてきたものと、私たちの想い

中高生たちの心からの提言、いかがでしたか。元々は「まちづくりに対する提言」としてより具体的な事柄について書いてもらう予定でした。結果は、ほとんどの提言が、人と人との関わりに関する社会の文化への願いを書いたものでした。それは、先のページで紹介した「社会人の困りごとコレクション」でも同様です。それらを作成するプロセス自体の影響はもちろんありますが、それでも、どちらも対話を通して紡がれていった、本当の言葉です。「提言としてよくできているか」「実現できることかどうか」よりも、これらの提言を中高生が心からの表現として書いていることを、社会に生きる大人として真剣に受け取りたいと思っています。

私たちは、地域・企業・行政・NPO など、様々な“人の集まり”に関わらせてもらっています。その中で「多くの組織で、人

と人との関わりで起きる事柄に多大なエネルギーを使っている。そしてそこではたくさんの方が苦しんでいる」を感じていました。今の社会文化の中では、人が集まればそういう状態になることはごく当たり前のことだとも感じます。そして必然的に社会全体も。

そんな中、自分の内側や、自分とまわりの人との関係性を望ましいものにしていくための研究・実践が世界でも進んでいます。私たちの今回のプログラムも、そうした流れを汲んでいます。そしてそれは、根源的・効果的に人の幸福感を大きくするものだ実感しています。「まちづくり」が、大きくは、人がより幸福を感じて生きられるようにするための取り組みだとしたら、自分自身やまわりの人とのつながりを“取り戻していく”ような対話を習慣にしていくことは、もっと力を入れてもいい「まちづくりの取り

組み」なのかもしれない。今回の対話中の言葉や反応・表情、中高生の提言、そして社会人の困りごとから、その思いをより強くしました。

私たちは引き続き、「たき火を囲むように対話しよう」というコンセプトのあたたかい対話の場・“たきびと”を開き続けていきます。社会の中では小さな存在ですが、「帰ってこれる場所」「自分自身やまわりの人とのつながりを取り戻せる場」を存在させることで、中高生たちの願いに応えたいと思います。

「善きことは、カタツムリの速度で動く」。マハトマ・ガンジーさんの言葉です。ゆっくりゆっくりかもしれないけれど、中高生たちが願う社会へと、みんなで動いていけることを願っています。

中高生ミーティングを共に作った、  
鹿児島市役所の大人たちの想い。



この子どもミーティングは、次世代を担う子ども達が、本市のまちづくりについて、夢やアイデアを出し合い、意見交換を行い、その意見を市政運営の参考とすることで、若い世代の市民参画の推進を図ることを目的とした取り組みです。この機会を通じ、ふだんは学校生活が中心の中高生に、改めて自分自身の将来やまちの未来、そこに暮らす人々について思い、共に考えることで、まちづくりやこれからの鹿児島市を「自分とは関わりのないところでつくられていくものではない」、自分事として意識するきっかけにしてもらいたいと考えております。

今回、参加された中高生の皆さんには、ゲストとして参加して頂いた社会人の皆さんや、サポートしてくれた大学生との楽しく、真剣な対話の場を通して、社会に触れ、様々な課題を知り、まちの未来や自分自身の将来について提言書という形にしていくことを経験してもらいました。ここで得られたことや感じた可能性を胸に、まちづくりや地域活動に積極的に参加してほしいと思います。また、市としても中高生の想いをしっかりと受けとめ、協働によるまちづくりを一層推進していきたいと考えています。

平成 29 年度 鹿児島市子どもミーティング開催事業

<p>名称： 中高生キャリア形成 "Be Hope!" プログラム かごしま「まちづくり」中高生ミーティング 2017</p> <p>参加者： 中高生 15 名 (男子・女子割合) 男子 5 名 女子 10 名 (中学・高校割合) 中学生 6 名 高校生 9 名</p> <p>日時： 【1日目】8月17日(木)9:30-17:30 4日間の基盤となる、安心・つながりづくり 【2日目・3日目】8月26日(土)、27日(日)9:30-17:30 「まちづくり100人キャンプファイヤー」 ～人に触れ、課題に触れ、社会に触れる2日間～ 【4日目】10月1日(日)9:30-17:30 収穫と提言を紡ぐ</p>	<p>場所： 1日目・4日目 鹿児島市役所 西別館 2階 多目的スペース 2日目・3日目 レインボー桜島 2階 コンベンションホール「桜島」</p> <p>講師・コーディネーター： 石川 世太 (合同会社むすび CEO) 飯福 あすみ (鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab 事務局長) 小笹 雄一郎 (コトカキ屋 代表)</p> <p>目的： 若い世代の市民参画を推進するとともに、その意見を市政運営の参考にしていくこと。</p> <p>対象： 公募により参加の、鹿児島市内在住、または鹿児島市内に通学する中高生</p> <p>【主催】鹿児島市 市民協働課 【実施・運営】特定非営利活動法人 SocialBrains (ソーシャルブレインズ)</p>
---	---